

学校（園）名：中央区立明石幼稚園 所在地：中央区明石町1-15

校（園）長名：佐藤 恵

児童（生徒）数 89 学級数 5 教員数 7 職員数 8

## 1 重点目標の達成状況及び取組状況

### 重点目標 1

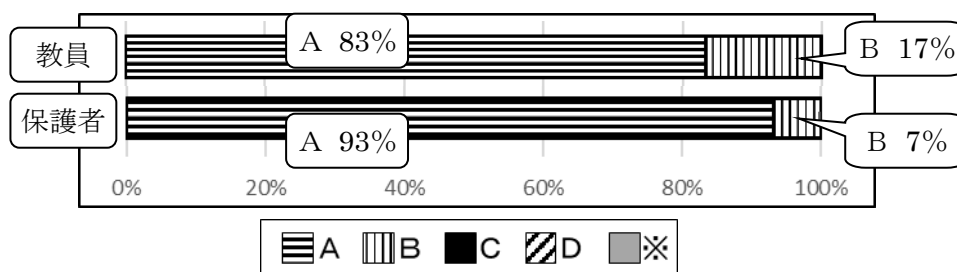
多様な動きを経験できる遊びを取り入れ、体を動かして遊ぶことを楽しむ幼児を育む。

<評価項目>・自ら体を動かそうとする意欲の喚起

- ・どのような運動の応力が身に付いているかの読み取りと挑戦する姿勢を促す  
援助の工夫

<評価指標>・体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。

（走る、跳ぶ、はねる、踊る、鬼ごっこ、ボール遊び、プール活動）



A よくあてはまる B あてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない ※ わからない

100%の保護者から「A よくあてはまる」「B あてはまる」の回答をいただき、目標はほぼ達成できたと考える。

### 成果

- ・幼児の発達や季節にあわせ、運動遊具を変えていくようにした。その際、幼児が自分で運動遊具を選択したり、運動遊びの場をつくったりできるよう、幼児が取り出しやすく、片付けやすい環境を整えた。それにより、意欲的に運動遊びに取り組み、多様な動きの経験をする姿につながった。
- ・教師と一緒に体を動かし、モデルとなったり、挑戦したくなる言葉や個に合わせた言葉を掛けたりすることで、体を動かす楽しさや自信につなげることができた。

### 今後の取り組み

- ・学年を越えて、他学年と関わりながら遊ぶことを重視する時もあれば、学年毎にねらいを明確にもって活動できるよう、全教員で共有しながら、環境設定の工夫をする。
- ・園庭エリアについては、限られたスペースであるため、学級・学年で連携を取りながら、満足できるまで遊び込めるよう、時間の調整を行う。

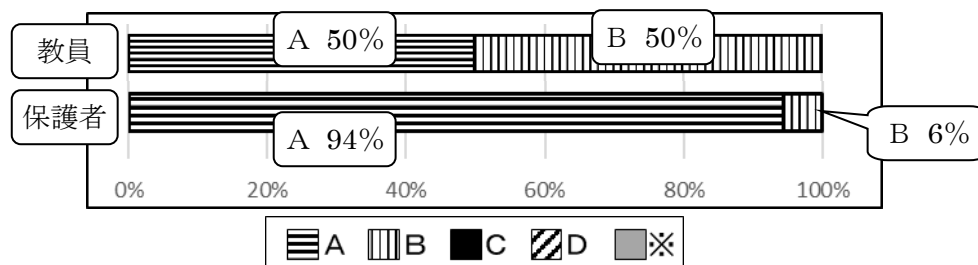
## 重点目標 2

園内環境を活かした指導の工夫を図り、夢中になって遊ぶ幼児を育む。

<評価項目>・夢中になって遊ぶ姿を引き出すごっこ遊びの指導の工夫

・友達と思いを伝え合ったり、力を合わせたりする態度の育成

<評価指標>・自分のやりたい遊びを夢中になって楽しんでいる。



100%の保護者から「A よくあてはまる」「B あてはまる」の回答をいただき、目標はほぼ達成できたと考える。

## 成果

- ・ 幼児のイメージや家庭・園での経験、季節の事象等を意図的に保育に取り入れ、環境を整えることで、イメージを膨らませながら遊ぶことができた。
- ・ 研究保育を行い、講師の先生よりご指導いただいたことを基に、ごっこ遊びの楽しさの捉え方を学んだことで、遊びの楽しさを広げていく手立てを考え、実践することができた。

## 今後の取り組み

- ・ 自園でこれまでに作成した『指導計画』に、ごっこ遊びの指導の工夫を加筆・修正することで、発達に合わせた教材の提示や環境の工夫等をしながら、ごっこ遊びの充実を図る。
- ・ その日の遊びを受けて、翌日、遊びに必要な教材の準備や環境構成を、保育後すぐに準備できるように、会議の時間を勤務時間の後半に行う。
- ・ 1階廊下に掲示している『わくわくマップ』を1学期に更新することで、2学期に1学期に楽しんだ遊びを思い出ししながら、さらなる遊びの展開ができるようにしていく。

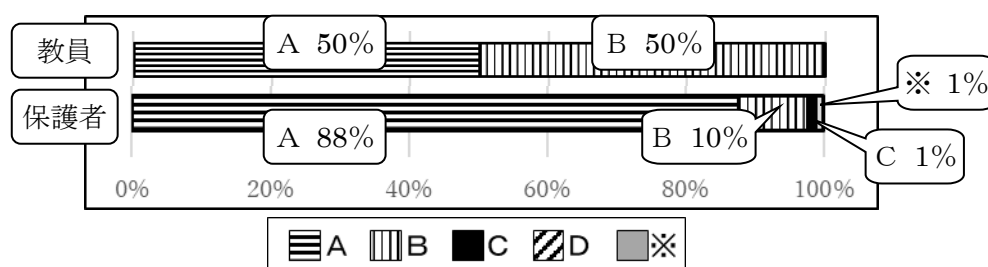
## 重点目標 3

異年齢児や様々な方との関わりを通して、思いやりの心を育む。

<評価項目>・異年齢児との関わりの方針的な実施と、状況に応じた柔軟な取り組みの充実

・感謝の思いを自分なりに表そうとする意欲の喚起

<評価指標>・異年齢児と関わることに、嬉しさを感じている。



100%の保護者から「A よくあてはまる」「B あてはまる」の回答をいただき、目標はほぼ達成できたと考える。

### 成 果

- ・行事を通じた交流や日常の遊びの中で、意図的に交流の機会をつくるようにした。それにより、年上の幼児への憧れの気持ちを持ち、自分から真似てみる姿が見られるようになった。また、優しくされた経験から、年下の子を思う姿も見られた。未就園児を招き、一緒に遊ぶ経験をした際には、年少児が自分よりも年下の子が来ることを楽しみにしていた。
- ・今年度は、小学生との交流も柔軟に行うことができ、1年生との交流給食、5年生との遊びや展覧会鑑賞、6年生による読み聞かせ等を行うことができた。

### 今後の取り組み

- ・次年度は、さらに交流を深められるよう、計画的に、会議や朝会で打ち合わせると同時に、子どもたち同士のつながりが自然に生まれるよう、意識して保育にあたる。

## 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況と今後の改善策

### 保護者アンケートより

#### 公開日

○発表の場だけでなく、普段の園生活を参観できる機会が増えると嬉しい。

→今年度、年長児は3学期に遊びの公開があるが、年少・年中児はない。次年度は、年少・年中の子の公開を入れ、日常の姿を見てもらう機会とする。

『ルクミー』の写真機能も活用しながら、タイムリーな姿を伝えていく。

#### 人間関係

○してよいことと、いけないことの指導について、最大限努力をしていただいていると感じるが、言葉より先に出ることもあるので、引き続き、お願いしたい。また、入れてと言っても入れてもらえないことがある時の対応について、指導をお願いしたい。

→子ども同士のトラブルの中で、必要な経験と、そうではない経験がある。手が出るといったことに関しては、起きそうな時を予測し、言葉で伝える経験ができるよう、年齢に合わせた援助をしていく。同時に、『葛藤』については、人と関わりを深め、広げる上で起きることであり、必要な経験であるため、幼児同士の思いに寄り添いながら、互いに相手の気持ちを感じられるようにし、しなやかな心を育てていく。

#### 情報発信

○『ルクミー』があることで、配布物や連絡等、分かりやすくなった。前日に再度、知らせてもらえたこともよかった。園便りの配信については、もう少し早いと嬉しい。また、保護者会や学級懇談会の時間を2ヶ月前に知りたい。

→園便りは1週間早く配信すると同時に、保護者会・学級懇談会は、2ヶ月前の予定欄に時間を記載する。

## 教員の自己評価より

### 遊び

- ・その日の遊びを受けて、翌日、遊びに必要な教材の準備や環境構成を充実させていきたい。  
→保育後すぐに、次の日の保育の準備ができるよう、会議の時間を勤務時間の後半に行う。  
また、教材の幅を広げていけるよう、OJTを活かしていく。

### 異年齢交流

- ・さらに計画的に・柔軟に異年齢交流を行い、互恵性のあるものにしていく。  
→保育室が1階と2階に分かれているため、打ち合わせを使い、計画的に交流できるようにしていくと同時に、担任一人一人がねらいをもって交流を行なえるようにしていく。交流の中で、年長児は、遊びや生活の目的を幼児がもてるようにすることで、自分たちで考えて関わることができるようにする。

### 会議のもち方

- ・会議の検討事項を効率的に、決定していけるようにし、保育準備の時間を確保する。  
→会議に向け、園務分掌の担当が計画の提案・検討内容の精査をしているが、担当以外の教員も、事前にレジメで議題を確認し、自分が保育をするにあたり、ねらいや方法を考えておけるようにする。